

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900239		
法人名	特定非営利活動法人弥栄発生活リハビリネット		
事業所名	グループホームふじいさんち		
所在地	島根県浜田市弥栄町木都賀口291番地		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成26年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は、3月20日に新築移転を果たし、地域に根づく努力を行っている。又、消防設備、空調設備においては、移転前の建物よりも充実し、入居者の方々の安心安全と快適が確保できた。又、床材に居室・廊下にクッション性とスベリ止めの効果があるものを使用し、転倒された時のリスクが軽減された。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年末、従来の所在地から新たな場所へと移転し再出発を果たした。新しい所在地も今までと変わらず四季折々の自然に囲まれた場所で、生活がスタートした。共同空間は従来の建物と変わらない造りと雰囲気になっている。移転先の周辺住民から盛大にお祝いしてもらったことから地域住民にとって期待される施設であり、今後は入居者が地域住民と触れ合う機会が増すよう期待される。開設当初からの理念を引き継ぎ13年目を迎える中、職員は利用者の方々の暮らしに寄り添い、変化に向かい合いながら質の高いサービス提供を目指している。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の気づきやアイデアを運営に生かし、職員の働く意欲にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ふじいさんちのコンプライアンスルールをもとにスタッフ会で話し合い、ケアプラン作成にあたっての協議等の中で確認しあって実践につなげている。	家族にも理念と職員の顔写真の入ったお手紙を配布し周知している。利用者がさらに笑顔になるために理念を追求し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年度は3月20日に当地に新築移転を果たし、当地集落自治会より、『祝い込み』の行事を持って歓迎していただき、その後も地域の方と行事を通して交流を行っている。日常的には、近隣の方々が野菜を届けて下さる等の交流がある。	事業所移転時には内覧会を開催し、地域の人々が多数参加した。施設内の行事の時には地域の独居の老人にも参加してもらうなど交流は多い。	利用者が地域と繋がりがりながら暮らせるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H24年度は町主催の「健康と福祉のつどい」で認知症の方への対応の仕方をアピールした寸劇を、H25年度は写真展示で笑顔のアピールを行った。年数回発行の広報誌では法人事業所の活動を掲載し、全戸配布を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に地域の方、利用者家族の代表、利用者、行政の方、認知症ケアに詳しい方と交えて話し合いをし、そこでの意見を地域交流の実践やサービスの向上に活かしている。	家族会の催しを検討したり、事業所行事の時には推進員の方に協力してもらうなど運営推進会議が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	H24年度は特に新築移転へ向けての相談を重ね、事業所の実情について伝えながら今日に至っている。今年度も担当者とは諸々において情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	移転時にも多くの助言を頂き、相談する機会は多く、連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ふじいさんちのコンプライアンスルールに従い、又、研修内容の共有をスタッフ会ではかる等、常に身体拘束とは何かを念頭において、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ふらつきがあり、立ち上がりの時に転倒のリスクがある利用者の居室にセンサーマットを設置している。家族から同意をもらい使用しているが、状態に変化があれば撤去の話し合いをしていく。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会で学ぶ機会をもち、研修に行ったスタッフは報告を行っている。事業所内での虐待については、注意を払って、何かあれば軽微なことでも記録にとどめるようにして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方のなかにすでに成年後見制度を活用されている方がおられ、後見人の方とは月1回の面接を行っている。制度については、そのことを通して学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の改定等の際には家族説明会を開催し、十分な説明を行い意見を聴く場を設け、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の方及び利用者家族の代表の方が出席され、意見要望を表せる機会を設けそれらを運営に反映させている。又、家族会や個別懇談会等でも意見要望を聴き運営やケアプランに反映させている。	毎月の暮らしの様子をたくさんの写真付のお便りにして一人ひとり作成し家族に郵送している。年2回の家族会や家族懇談のときに思いや意向を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見袋を設け、日々の意見や提案を書いて入れてもらい、スタッフ会でそれらを話し合い、反映させている。	スタッフ会では職員からの意見を事前に聞き議題に上げたり、管理者で検討し運営に反映している。勤務希望は多数取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの職員の勤務時間の希望や勤務状況を把握し、やりがいをもって働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び個々の職員に合った研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の主催する会合に出来るだけ参加するように努めている。市内での同業者の集まりは、H24年度から個々の事業所の実情から中止されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接において、不安なことや要望を聴き取り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応についてはご本人、ご家族等との面談時に必要な支援を見極め、当面のケアプランを作成し、その対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒にしたり、ご本人の経験や知恵、技能等を教えてもらったりして、関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等にはご本人の状態を事あるごとに伝え、ご家族等と共にご本人を支えていく関係を築くよう努めている。しかし、一方では、そういったことを望まれないご家族もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に出会う馴染みの人との交流や、郵便・訪問等ご本人にとって、ご家族等にとって、支障のない範囲で支援に努めている。	利用者の自宅の近所の人や親戚の来訪がある方や、電話やハガキで関係が継続している利用者もいる。外出先で知り合いに出会うなど継続的な交流も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや食卓の配置等に気を配り、又難聴の方には話をお伝えしている。職員は支え合えるような支援に努めているが、利用者の方々の相性や生活感の違い等で共同生活上の人間関係のストレスは生じていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、関係性を大切にしながら、ご家族の相談に応じて、利用したいと思われる施設の提供等協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や意向を把握し、スタッフ会で全職員が周知するように努めケアプランを作成している。	日頃の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。美容院への通院など金銭的なことは家族と相談しながら実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等やご本人からの情報、入居前のケアマネージャーからの情報をもとに、これまでの暮らしの把握に努め記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々関わる職員の申し送りや記録、又スタッフ会での話し合いにおいて、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事あるごとにご家族等と連絡をとり相談し、ご本人・ご家族の意向を反映したケアプランの作成に努めている。又、課題とケアのあり方についてはスタッフ会で話合っている。	利用者・家族の意見・要望と職員の意見が生かされた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入と申し送りにおいて職員間で情報を共有しながら、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところ事業所のサービスの他、多機能化をはかる取り組みは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まず、当地に根づくことを目標とし、今後地域資源を把握し一人ひとりに活かし、生活を豊かにできるような支援に結びつけていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者1/3以上の方の定期受診には職員が付き添い、ご家族が付き添われる場合でも、かかりつけ医への情報提供は行い適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の変更は進めておらず、今までのかかりつけ医に家族支援で受診している利用者も多い。家族が受診した時は、受診結果をノートに記載し情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はなく、職場内での協働は実現していない。かかりつけ医のいる医療機関の看護師との連携をはかるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院される方はなかったが、以前の例では病院関係者との情報交換に努め、話し合いの場を設けたことがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や共同生活が困難となられた場合においては入居契約時から事業所の方針を説明している。又、ご主人の状況に応じて随時ご家族等と話し合いを持ち方針を決め、支援に取り組んでいる。	事業所独自の退所基準を設けており、重度化した場合は日常生活動作や行動障害などの項目を職員全員で採点し、理事会の判断で退所となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度は新築移転がH25. 3. 20にあり、その準備に追われ、又今年度移転後もまだ訓練の機会を設けることができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	移転後6月に火災を想定した避難訓練を実施している。今後地域と協力体制を築き、運営推進会議で話し合い、自然災害を想定した訓練を行う予定。	スプリンクラーを設置し、火災想定避難訓練も実施している。地域の消防団に事業所の存在を知ってもらい、気にかけてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ふじいさんちのコンプライアンスルールを基本にスタッフ会でも確認し合って、対応については常に意識するようにしている。	利用者に対して不適切な言葉づかいや対応と思われた場合は注意し、自己決定の機会を大切にしながら日々の暮らしを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表現できるように声かけをしたり、自己決定を促したりする対応ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いや希望を表現できるような支援に努めているが、すべての方が満足できるような取り組みはまだできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に、その人らしい身だしなみやおしゃれをし、化粧品の購入等ご家族の協力も得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立については、好みを取り入れ、又、下ごしらえや盛付け等は利用者と職員と一緒にを行うように努めている。又、片付けも負担にならないよう注意を払いながら一緒に行っている。	地域の人が作った野菜を献立に取り入れたり、地元の野菜で食事を作っている。訪問時には、職員も利用者と同じものを同じテーブルで楽しく会話しながら頂いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や疾患(糖尿病等)に留意しながら、一人ひとりの量や栄養バランス、水分量が確保できるよう支援している。水分摂取が不十分な利用者の方には居室に水や好みの飲み物を置き、摂取を促すなど工夫をこらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、ご自分でできない方や口腔内のトラブルのある方については、歯科衛生士であるパート職員に相談し支援のしかたを学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については一人ひとりに合ったパンツやパットの使用を促し、さりげない見守りや一部介助等行いプライドを大切にした支援に取り組んでいる。	排泄チェック表で間隔を把握し支援している。日中布パンツで生活する利用者も数名いる。ポータブルは使用せず、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事メニューやオリゴ糖等を活用し便秘の予防に取り組んでいる。又、1日1～2回の体操を日課とし運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日課としては16:00～18:00が入浴タイムで全員の方が1回/2日の頻度で入浴できるように促し、個々に応じた入浴の支援をしている。	個別に入浴支援を行っている。夕方の入浴が定着しており、ゆっくりと入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休息をしたり眠れるように空調、冬の暖房(床暖房、エアコン、あんか等の調節)等に気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診ノート、薬剤情報提供書で薬のことに理解と確認に努めている。毎食前食後には一人ひとりの服薬の支援を行い、症状の変化については注意して確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を把握するよう努め、それを活かした活動ができるようにケアプランを作成し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望に添うことはできないこともあるが、できるだけ外出の機会を多くもてるように努めている。普段行けないような場所については、ご家族等の意向や協力のもとに出かけることが可能な利用者の方もおられるので、出かけられるように支援をしている。	家族の協力で定期的に外出される利用者もある。家族の協力が得られず外出する機会が少ない利用者は個別に散歩やドライブに誘っている。初詣は利用者全員で出かけるなど全員外出の機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことについては、一人ひとりの希望や力に応じて、ご家族等と話し合った上で所時したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等と話し合った上で、ご本人が希望された時に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。ご家族等の意向に反する対応はひかえている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で快適に過ごしていただけるように配慮し、花や季節感のある飾りものを用意している。	以前の事業所で使っていたものを配置し、変化が少ないように配慮されている。リビングは広すぎず生活感があり家庭的な雰囲気大切にしている。	利用者にとって居心地のよい生活空間となるような環境整備に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中では居場所が決まってしまう思い思いに過ごせるようなスペースが少ない。リビングや食卓での席の配置はご本人の希望や状態によって職員が常に考慮し工夫を重ねている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置かれているものはご本人やご家族等と相談したもの、あるいはご家族等の意向で持ってこられたものもあり、ご本人が居心地よく過ごせるように支援している。	移転し居室が新しくなり「寂しい」という利用者には家族に協力を求め、手作りの作品でお部屋を飾ってもらった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等の表示や居室入口の名前の表示を行っている。廊下やトイレ、浴室等必要な利用者の方の居室には手すりを設置している。		